

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年1月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101060
法人名	社会福祉法人 陽明会
事業所名	グループホーム 下田温泉の郷
所在地	鹿児島県鹿児島市坂元町1087-1 (電話) 099-210-7431
自己評価作成日	平成30年11月30日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・森林に囲まれ、川のせせらぎを聞きながら生活ができる場所。
- ・一階には託児所が設置しており、働く母親が安心して子育てができ、入居者様も子供をみて孫や子供をいつでも思い出すことができる環境。
- ・食事は栄養士の献立を元に提供を行なっている。
- ・2階の屋外には畑を設けており、季節に応じて野菜、芋などを作り入居者様と収穫する喜びを感じていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 医療法人が母体のホームである。法人医師から毎日定時で電話連絡があり、緊急時や重度化した場合の対応についても段階に応じた相談や対応ができるしくみがある。重度化した場合などは、必要に応じて医療機関や施設などを紹介するよう支援している。
- リビング、ダイニングは広々としており、天井も高く採光もある。談話スペースは、読書や日光浴、家族と懇談する空間にもなっている。職員は、利用者が好きな時に、ゆっくりのんびりと過ごせる住環境作りに努めている。両ユニットが、2階フロアにあるため外の季節ごとの景色を居室から眺め、小川のせせらぎを聞きながら季節の移ろいを肌で感じる事ができるホームである。
- これまでの本人の生活歴や習慣を踏まえ、毎朝神棚にお参りし、お供えをする日課が続けられるよう支援したり、居室の掃除を日課にしておられる方へのサポートを踏まえ、生活感が溢れ自立支援を意識した取り組みができていますが、一方で、重度化が進んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、のんびり、その人らしく地域生活を楽しむ」を理念に一人一人が意識し、また、共有することでサービスの質を高め、入居者様に安心して地域生活を楽しんでいただけるようにしている。	理念は、共有スペースに掲示されており、重要事項説明書に掲載されている。開設当初からの理念ではあるが、住宅地という環境もあり「地域生活を楽しむ」という理念については、実践ができていない。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して地域とのつながりをもてるようにしている。GHから徒歩、車椅子を使用して地域と関わりをもてる距離ではない為、避難訓練などを利用して地域との交流を図れるようにしている。	自治会に加入しており、清掃活動に参加したり、年1回総会に出席している。地域の方が週2回のカフェに来られているが、利用者との交流までには繋がっていない。管理者は、地域との関係性が構築できるよう検討している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議を通して、認知症の知識や認知症を患っている方に対する理解や支援、対応の方法を相談を受けた場合に行なっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際には入居者様も出席して頂き、サービスに対してどう思われているか、率直なご意見を聞き、頂いたご意見を参考にサービスの向上につなげるように努めている。	管理者は、家族の参加がしやすいよう日程の調整をしたり、議事録を閲覧していただきながら、面談して家族と事業所の情報などを共有していく予定である。また、参加メンバーについても地域を始め、より多く方に参加していただけるよう見直したいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などを通して協力関係を築いている。また必要に応じて電話や窓口に出向き、相談ごとなどで連携を図れるように取り組んでいる。	市担当者とは、面談や電話などで情報を伝達し、指導や助言をいただくなどして相互の協力関係を築いている。市主催の研修会の案内もあるが、参加ができていない。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム内での身体拘束について、してはいけない行為は勉強会等で周知されており、拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体的拘束等の適正化の促進のため、昨年、指針の見直しをしている。適正化のための会議は、3ヶ月1回、研修会は毎月開催されており、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修などで学んでいる。勉強会においては担当の者が資料を作り職員が職員に講話が出来るようにしている。また日々のケアの中で身体状況を確認し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会やスタッフ会議で資料を準備し、重要性を確認した上で知識の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約、改定時には家族と面談を行い、サービス内容、利用料金、利用情報、緊急時の対応及び解約方法等の説明を十分に行い、理解・納得をしてから署名、捺印を頂いている。退居時には解約に入る前に家族面談を行なうようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様が職員に対して何でも話せるように空間作りを行なっている。また、家族の面会時にはCMや各ユニットの職員が入居者様の近況報告を行い、その際に家族、入居者様の率直な意見や要望を聞き取るよう心掛けている。その内容を経過記録に記入し、ケアカンファレンスで検討事項として取り上げている。	利用者や家族からの意見や要望があった場合は、連絡ノートや申し送りノートなどを活用し、職員に周知し各ユニットやカンファレンスなどで話し合い利用者や家族の意向に沿うよう検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や報告、連絡、相談はスタッフ会議や個々に取り合い反映できている。	職員とは、個人面談し意見、提案などを聞き取る機会がある。派遣や夜勤専門職員を採用するなどして勤務体系を見直している。職員の異動の際はその都度家族に報告しており、今後は、両ユニットのスタッフ会議を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の代表が月に何回か報告、連絡、相談を受け、グループホームの活動がより良いものになるように協力を惜しまない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>1日に朝、昼、夕、晩と4回入居者様の様子の報告をすることで健康状態の把握の仕方や、法人で行なう研修の参加、また日々のケアを見る機会をつくり、気がついたことを話し合っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県や市の老協協の研修への参加や認知症の研修への参加、法人内で行なわれる研修会への参加や職員会への参加等でスタッフ1人ひとりが真面目に素直に謙虚に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集を行い本人の要望に対応出来るように努めている。また入居の際、利用者のそれまでの生活歴や現在の不安事を職員同士で共有しその方にあった支援をするよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取りによる実態調査を行い家族の要望等に基づいた対応やケアを実施、不安解消につながるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じてグループホームで出来る支援の中でどれが必要なのかを考慮して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様を家族と思い一緒に生活をしながら喜怒哀楽をともにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には、ご家族との時間を大切に頂き、また、本人の現況を共有し今後の方向性を確認している。また、職員と一緒に出来る援助を日課として組み入れて実践している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の親戚、友人、知人の面会があった場合は気軽に訪問して頂けるよう環境作りを行っている。	面会が多く、手紙や年賀状の代読をしたり、毎月、写真入りの通信を家族宛てに送り関係性が途切れることがないよう支援している。たまには、近所の方が来られたり、法人の老人ホームに面会に行き交流される方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のコミュニケーションのきっかけを職員が作ったりし、関わりを広げられるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ訪問、面会を行なっている他、ご家族からの電話連絡にも対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに合った暮らし方を提供している。また入居者様の口調や表情、会話からも思いや意向を察知出来る様に把握し、その状況を経過記録や申し送りに記載することで情報を共有しケアの統一を行なっている。	利用者の日々の暮らしぶりを見ながら会話や行動を参考にして、本人の思いに触れるよう努めている。更新前には計画作成担当者は職員が記載した、「サービスの実施状況」を参考に本人や家族の意向を介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集やご家族、本人との面談を行い、アセスメントを作成し把握に努めている。またご家族にも昔の事を聞きながら、本人が混乱なく安心して生活して頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、水分、排泄状況の記録を行い、毎日バイタル測定（朝、昼、夕）し、体調の変化、些細なことでも職員間で共有し主治医へ報告するように心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにより、その方の最新ニーズに合わせて、ケアプランに反映できるようにしている。また、ご家族面会時など家族からみて感じる変化なども聞き取りを行い、ケアに反映するように心掛けている。	なるべく家族の都合に合わせた日程を調整し、利用者、家族、職員と一緒に話し合うようにしている。モニタリングは、毎月実施しサービスの見直しにも柔軟に取り組んでいる。機能訓練に力を入れており、3ヶ月毎に専門職とのカンファレンスなどで話し合い計画の見直しを検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼夜の様子を記録に残し、職員間での情報共有できるようにし、日々の記録のページにケアプランがすぐ見ることが出来るように綴っている。連絡ノート等の活用もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問での美容師を依頼し、ご本人の好みに合わせて、散髪や染髪して頂いている。また、日曜日のデイサービスがお休みの際マッサージ機を使用して下肢の浮腫、筋力の維持に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺を散歩したり、本人の了解を頂き、運営推進会議に参加していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は希望や状況に応じて随時対応している。入居以前からのかかりつけ病院の受診、往診などは出来るようにしており、その際は職員で対応を行っている。可能であれば、ご家族にも同行、同伴をお願いしている。毎日2～3回、理事長である医師に入居者の身体状況を報告している。	母体医療機関の医師からは、毎日定時の電話連絡がある。外来受診は、職員が対応するが、家族にも協力を依頼している。訪問歯科、他科受診の支援や薬剤師との連携が図れており、医療に関しての情報共有のため文書化されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況の異変に気付いた際には常勤の看護師に見てもらうようにしている。また、普段より協力病院の看護師、または本部である下田苑の看護師にも相談、助言を頂き関係作りを構築しているよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院する際は支援経過、ケアチェック表等の情報を提供。退院時には病院からの情報提供を受けいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期においては早い段階から法人内特養に申込みをして頂き、環境の整う所でケアを行なうように支援している。入所が決まるまでは個々にあったケアを他職種と連携してケアを行なって支援している。	「重度化した場合における対応に係る指針」は、重要事項説明書にて入居時に説明し同意をいただいております。看取りの体制はない。また、緊急時や重度化に至る対応については、文書化されていない、ホームにおける医療行為に関する意思確認も具体化していないため今後の検討課題である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し勉強会、スタッフ会議において職員の研修を行なっている。法人内の研修にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防立会いの元、避難訓練を実施している。火災訓練は実施しているが、その他の災害が実施出来ていないため、今後取り組む予定。</p>	<p>火災を想定した避難訓練は、運営推進会議と同時に実施されており、町内会長などに協力依頼している。毎月19日は、防災点検を実施、水やレトルト食品、懐中電灯やカセットコンロなど備えている。正面玄関は、2重扉で外部から容易に侵入できないようセキュリティ対策がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり職員が入居者様を把握し相手に合わせて、言葉掛けや対応を行なっている。	年1回、法人全体での「接遇マナー」に関する研修会に職員全員が参加している。訪室時は、必ずノックしてから入室したり、不適切な言動がないよう職員同士が気をつけてケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に合わせて自己決定を促している。言葉などで訴えることが出来ない時は、相手の目や相槌または本人の問いかけを促し自己決定ができる様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて一日一日を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時や行事等のとき、整容し衣服を整え、気持ちの良い状態で入れるようにしている。女性で化粧したい時は女性職員にて化粧してもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備の時には、入居者様に皿を盛り付けてもらったり、食事の際には、職員が入居者様と一緒に食事を取るようになっている。	各ユニットに菜園があり、献立に活かされている。外食は、家族に協力をいただいたり、差し入れがあり家族会の時は、弁当を取り一緒に食卓を囲んでいる。食事形態は、荒刻み、とろみ食と食べやすいよう工夫しており、自立している方が多い。能力に応じた手伝いもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量、水分量をチェックし、一人ひとりに合わせた食事形態を提供している。また、情報共有しながら、食事のムラや脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し保清に努めている。ご自分で出来ない方は職員が介助にて行っている。毎晩ポリデントにて消毒を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し声掛けして誘導、介助を行っている。また一人ひとりに合わせてパットの種類を分けている。	排泄誘導の声のトーンなどに気をつけるなどプライバシーに配慮している。便秘対策にも取り組んでおり、水分補給、乳製品を毎朝提供するなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を1日1500ccを目標とし入居者様に飲んで頂いている。また、必要に応じて下剤、座薬等を一人ひとりに合わせて使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2～3回の入浴を実施。入居者様の体調と気分に合わせてリラックス出来るように支援している。	陽だまりユニットには、リフトが設置されており、重度の方の入浴に活用されている。体調不良時や感染症予防のため足浴や清拭などして保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて室温調整、リネン調整を行い、入居者様が安心して眠れるよう支援している。また、体調や気分に応じて休息をさせていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が薬の内容を把握しファイルに保管している。また、薬情書は最新を保管し、内服の変更や臨時薬の処方があった場合はその都度情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割を分担し、残存機能を活かせるよう支援している。また外出や行事参加することで気分転換となるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や入居者様の体調に応じて地域周辺の散歩をしたり、春夏秋冬に合わせてドライブに連れて行ったりしている。また、ご家族様との外出、外食なども行っている。	行事計画を作り、季節の花見見物やドライブを楽しんでいる。また、家族と花火大会に行かれる方もある。天候の良い日は、施設の駐車場で外気浴や散策を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望または自己管理が出来る方のみお金を所持して頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望があれば、電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。また毎月職員からご家族様に写真を添えて手紙を近況をお知らせしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じて通路やフロアの飾りを変えたり、入居者様が目で見ても楽しんで頂けるようにしている。また、トイレや浴室等寒暖差が無いよう配慮し、個人の膝掛け等を使用して保温に努めている。</p>	<p>対面式キッチン、テーブルを囲むようにソファが設置してあり、テレビを観たり、うたた寝をするなどして思い思いに過ごせるよう工夫されている。書初めの掲示、季節感を取り入れたレイアウトがされて採光もあり、居室との間に談話スペースがある。両ユニットが温泉宿を模したような配置になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>談話室を設けており、日光浴や読書等、一人の時間が過ごせるように工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	出来る限り自宅に近い雰囲気となるように入居の際には使い慣れた私物を持参して頂き、ご家族様と協力して部屋作りを行っている。	冷蔵庫やフットマッサージ機、机や椅子などの使い慣れた物を持ち込み、居心地良く過ごしていただいている。また、身体機能に応じて介助バーを活用、移動の安全性や転倒予防を意識し居室環境を整備している。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	建物内には段差はなく、手すりがあるので機能に応じて手すりを使用して歩行して頂いている。また、フロア内を自由に歩いてもらいたい為、危険のないよう無駄な物は置かないようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない